

小学校・道徳の内容項目の解説

家族愛

●小学校学習指導要領（平成20年3月）

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること		〔一般的な呼称例〕
低学年	(3) 父母，祖父母を敬愛し，進んで家の手伝いなどをして，家族の役に立つ喜びを知る。	家族愛
中学年	(3) 父母，祖父母を敬愛し，家族みんなで協力し合っ楽しい家庭をつくる。	家族愛
高学年	(5) 父母，祖父母を敬愛し，家族の幸せを求めて，進んで役に立つことをする。	家族愛

●解説

関連の説明	家族集団とのかかわりに関するものであり，家族や家庭を愛する心をもった児童を育てようとする内容項目である。主に，第3・4学年の4の(3)及び第5・6学年の4の(5)と深くかかわっている。
全体的な理解	児童の人格形成の基盤は家庭にあると言ってよい。家庭で身に付ける道徳性が，様々な集団とのかかわりの基盤にもなる。そのような家族一人一人についての理解を深めれば，父母や祖父母を敬愛する心が一層強くなる。また，家族の中での自分の立場や役割を知ることから，その一員として積極的に役に立とうとする精神が芽生え，家族のために役に立つ喜びが実感できるようになる。このような家族や家庭を愛する心の指導が大切である。
低学年	この段階においては，日ごろの父母や祖父母の様子を知ることから敬愛の念を育て，家の手伝いなどを行って積極的に家族と交わり，家族の一員として役に立つ喜びが実感できるように指導していくことが大切である。なお，多様な家族構成や家庭状況があることを踏まえ，十分な配慮を欠かさないようにする。これは，この後の学年段階における指導においても同様である。
中学年	この段階においては，父母や祖父母への敬愛の念を深めるとともに，家庭生活により積極的にかかわろうとする態度を育てることが大切である。そのためには，自分が具体的に家族の役に立つことができ，家族に喜ばれるという実感をもたせることが必要である。自分が家庭における重要な一員であることの自覚を深めることによって，協力し合っ楽しい家庭をつくらうとする積極的な姿勢をもつことができる。
高学年	この段階においては，一層積極的に家庭生活にかかわることが求められる。すなわち，家族の幸せのために自分には何ができるのかを考えて，家庭での自分の役割を自覚し，家族のために，積極的に役に立つことができるよう指導することが必要である。そのためにも，家族が相互に信頼関係と深い絆で結ばれていることについて考えを深められるよう指導することが大切である。

文部科学省「小学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年8月）より

■参考：中学校学習指導要領（平成20年3月）

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること		〔一般的な呼称例〕
(6) 父母，祖父母に敬愛の念を深め，家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。		家族愛